ゴビウスニュースレター

ISSN　1349－1709

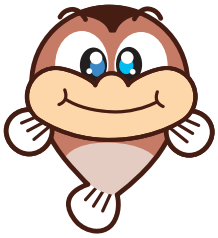
しまねっ湖



ニホンアカガエル　*Rana japonica*

体長４～７㎝。本州や四国、九州などに広く分布し、平地の森林や水田、湿地などに生息しています。体色は赤褐色で目の後ろが黒く、とがった吻先が特徴です。繁殖期は早春で、その頃に降る暖かい雨などをきっかけに、複数の雌雄が水田の水たまりなどに集まって、産卵します。この時期に産卵する理由は、ヘビなどの天敵を避けるためと考えられています。

（原いつき）



No.78
2024. Spring

CONTENTS

特別展報告 …… 2
ゴビウスのなかまたち …… 3
こらまたなんだら / イベント報告 …… 4

両生類・爬虫類のいろは

2023年11月22日(水)～2024年１月15日（月）に第55回特別展「両生類・爬虫類のいろは」を開催しました。名前は知っていても両生類なのか、爬虫類なのか覚えにくい生きものたち。今回の特別展では、両生類と爬虫類のちがいを体のつくりなどから紹介しました。



特別展会場

両生類では、カエルやイモリ、サンショウウオ、アシナシイモリのなかま６種を展示しました。両生類特有の変態については、アフリカツメガエルのオタマジャクシ（幼生）とカエル（成体）を展示し、変態の流れをより詳しく解説した小冊子で紹介しました。


アフリカツメガエル(幼生)

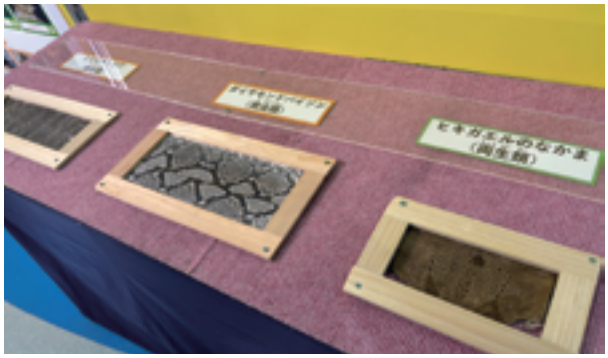

アフリカツメガエル(成体)

また、土の中を再現した水槽でメキシコハダカアシナシイモリを展示したり、姿がよく似ているフタユビアンフューマとハイギョを展示して、両生類と魚類の関係についても紹介しました。

爬虫類では、カメやトカゲ、ヤモリ、カメレオン、ヘビのなかま10種を展示しました。樹上で活動するために進化したエボシカメレオンの指の形や左右に動く眼など、環境に適応した爬虫類の体のつくりに注目して、じっくり観察していただきました。


エボシカメレオン

また、生体展示以外に、メガネカイマンの剥製や両生類・爬虫類の皮ふに触れることができるハンズオンコーナーも設置しました。革細工に使用されるトカゲやカエルの皮ふの違いに多くの方が驚かれていました。


トカゲ･ヘビ･カエルの皮ふを触ってみよう!

期間中の土曜日11時からは、特別展会場で「両生類・爬虫類お食事拝見！」を開催しました。実際にエサやりする様子を飼育スタッフの解説をふまえて観察してもらい、エサを食べた際は、「おぉー」と声が上がっていました。


「両生類･爬虫類　お食事拝見!」の様子

そのほか、関連イベントとして「トカゲやカエルのおめんをつくろう！」を開催し、参加者に計６種類の中からお面を選んで作成して楽しんでいただきました。

今回の特別展で、両生類と爬虫類のちがいや体のつくりなどについて知っていただきました。この展示をきっかけに両生類や爬虫類にもっと興味を持ってもらえるとうれしく思います。

（逢坂香織）

展示協力：

海とくらしの史料館、栃木県なかがわ水遊園（順不同）

ゴビウスのなかまたち

汽水のなかま コイ

ゴビウス出口付近、53番水槽の中には、ひときわ大きなコイがいます。平均的な大きさは60cm程度ですが、宍道湖ではまれに１ｍ近い大物サイズがとれることがあります。ここで展示している大きなコイの多くは、宍道湖で漁獲されたものです。

コイを観察するときには、ぜひ口元に注目してみてください。口の両側に長いヒゲと短いヒゲが２本ずつ付いていて、ヒゲを使いながら底のエサを探して食べています。魚のヒゲは感覚器のような役割をしており、エサになる生きものを探すときなどに使われています。また、ゴビウスでは、浮上性のエサを与えているため、与えた直後は水面近くに上がってきて、浮いたエサをパクパクと食べていますが、やがてエサが沈むと、水槽の底で口を伸ばしたり縮めたりしながらエサを探しているようすが見られます。コイは、口が下向きについているため、底に沈んだものを食べることが得意です。大きなコイは、口元のヒゲやエサを食べている行動が観察しやすいので、見てみてください。

（松本千優）



コイのヒゲ



底に沈んだエサを食べるコイ

淡水のなかま オオシマドジョウ

島根県でみられる在来ドジョウのなかまは、ドジョウ、イシドジョウ、サンインコガタスジシマドジョウ、ニシシマドジョウ、オオシマドジョウの５種です。そのうちゴビウスでは、４種のドジョウをこれまで展示しており、じつは常設展示で紹介できていない種類がいました。

私は淡水魚のなかでも特にドジョウに思い入れがあり、残す１種「オオシマドジョウ」を展示すべく、2023年の展示生物の収集計画を立てました。そして採集に行ったスタッフの協力もあり、ついに展示にこぎつけました。

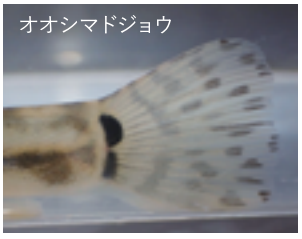
シマドジョウには、染色体数が異なる集団がいることが以前より知られており、シマドジョウ西日本グループ２倍体型がニシシマドジョウ、シマドジョウ西日本グループ４倍体型がオオシマドジョウと呼ばれいます。島根では県東部にニシシマドジョウ、県西部にオオシマドジョウが分布する傾向があります。

どちらも見た目はそっくりですが、山陰地方の集団は尾びれの付け根にある黒点の違いで、２種を見分けることもできるようです。ゴビウスで展示する５種のドジョウにぜひご注目ください。

（桑原友春）



オオシマドジョウ





尾びれの黒点

こらまたなんだら！ 其の三十　神葉草

山の木々が葉を落とし始める頃、海の中では、海藻の芽吹きが始まります。多くの海藻は秋から春にかけて大きく生長し、初夏になると枯れてしまいますので、陸上の植物とは季節がちょうど逆転しているイメージでしょうか。

そんな海藻を、島根県では思わぬ場所で見かけることがあります。神社の境内です。例えば、松江市の佐太神社や、出雲市の長浜神社を訪れると、拝殿近くに設けられた専用の場所に「神葉草」「厳藻」などの名前で、ホンダワラのなかまが供えられています。海から引き上げたられたばかりの水分を含んだものから、カラカラに乾燥したものまで、いつも誰かが海藻を持参していると思われるその場所には、独特の雰囲気とほんのわずかな磯の香りが漂います。

また、出雲地方には、正月飾りとして乾燥させたホンダワラのなかまを、稲穂と組み合わせて供える風習もあります。こちらも「神葉」と呼ばれ、枝に付いたたくさんの小さな気泡（海藻の浮袋）を、米粒がたわわに実った稲穂に見立てて、おもに五穀豊穣の祈願に供されます。

全国的にはコンブが神饌（神様の食事）のひとつとして広く知られているところですが、当地では、それ以外の海藻もさまざまな神事と深く結びついています。また、このような厳かな一面がある一方で、最近では、食物繊維とミネラルがたっぷり詰まったヘルシー食材として世界中から注目を浴びています。まだまだ寒さの残る季節ですが、晴れて穏やかな日に近くの海辺に出掛けてみると、一年でいちばん元気に海藻が生い茂る風景に出会えるかも知れません。

（中畑勝見）



佐太神社の藻汐祓
<海水を入れた竹筒も供える>



長浜神社の厳藻かけ
<出雲の語源という説も>



正月飾りに用いられる神葉（左側）
<海藻の気泡は米粒そっくり?>

イベント報告　～「年間パスポート会員限定イベント　チリメンモンスターをさがせ！」編～

11月11日と25日に、チリメンジャコの中にまれに混ざっている「チリメンモンスター」を探すイベントを開催しました。選別前のチリメンジャコを使用したので、タコやイカをはじめ、さまざまな生きものが海にいることを知ってもらえました。これからも身の周りの生きものに興味をもってもらえると嬉しいです。

（大山淳子）



ゴビウスニュースレターしまねっ湖　No.78
発行日／2024年2月15日
発　行／島根県立宍道湖自然館ゴビウス（管理運営：ホシザキグリーン財団）
〒691-0076　島根県出雲市園町 1659-5
TEL 0853-63-7100　FAX 0853-63-7101
URL www.gobius.jp/　E-mail gobius@gobius.jp

■動物取扱業に関する表示
氏名または名称：公益財団法人ホシザキグリーン財団
事業所の名称：島根県立宍道湖自然館
動物取扱業の種別：展示
登録番号：第073102040号
登録年月日：2007年5月17日
登録有効期限：2027年5月16日
取扱責任者：桑原友春

古紙パルプ配合率60%再生紙を使用
本誌は地球環境に優しい植物油インキを使用しております。
VEGETABLE OIL INK
植物油インキは、大気汚染の原因となるVOC（揮発性有機溶剤）の削減および再生紙処理の優位性が高い成分です。